

## 友好交流職員 河 俊圭(ハジュンギュ)さん 日本生活レポート③(2020.7)

今日は7月26日です。城南市から京畿道に転職した日は2013年7月26日、神奈川で1年始めたのも7月26日です。私の公務員生活の中で、縁が深い日です。

神奈川での2019年7月26日も記憶に一番残っている日です。良い方たちに出会い、会食をした日だからです。

会食とともに始まった日本生活は終わり、明日からは京畿道庁に出勤します。元々所属していた土地情報課に行きますが、30日に人事発令があり、次はどこ所属になるのかわかりません。

今回は、帰国する過程についてお話したいと思います。

### ○ 日本生活の整理



1年も住んでいたもので、しなければならぬことはかなり多かったです。7月7日午前  
に県庁国際課職員たちに帰国挨拶をして、国民健康保険の解約と住民登録転出の手続きの  
ため区役所を訪問しました。

午後には、韓国に小包を送るために「郵便局の小包出荷サービス」を申し込みました。  
電話をして予約をしたら、直接小包を取りに来てくれます。

出発前には、日本には3箱を送りましたが、今回は韓国に10箱を送りました。日本での  
生活の中で購入した品物も多かったです。箱の中には1年間の研修を受ける中でいただ  
いた資料がすべて入っています。

小包の費用に最も影響があるのは重さです。小包の半分ほどが研修資料で、資料の重さ  
が相当で料金は4万円程になりましたが、お金より神奈川での思い出を選びました。

○ 出発前



住み慣れたドーミー二俣川の写真です。1年間食べて、寝て、他国の若者たちと交流した場所です。写真は誰もいない寂しい姿ですが、すべての場所に思い出があります。たくさん料理を作って、学生たちと分けて食べたり、職員たちを招待して私が作った料理を職員たちがおいしく食べてくれたのは本当に嬉しかったです。母が子どもたちに、お腹がいっぱいなのに、しきりに食べ物を勧める心情が分かるようになりました。

○ 出発



出発の準備を整え、横浜駅まで行くためにタクシーを待っている途中で、ドーミー二俣川を目に入れておきたく、あちこち写真を撮ってみました。普段外へ出なくても、ドーミー二俣川ではできることが多いです。卓球場や音楽室もありますし、庭でバドミントンもできます。無料のWi-Fiもあり、見たい映画やアニメも思う存分楽しむことができました。



左は、ドーミー二俣川を外から撮った写真です。神奈川県庁所有の建物で、私以外にも政策研修員や海外技術研修員も生活していたところです。2～3月には居住者が少なかったですが、最近学校が始業して、学生がたくさん増えました。午後6時くらいになると、台所で料理をする人で賑わいます。主に日本語の塾に通ったり、県内の大学に通う生徒が約30人住んでいます。

右は、大きなドーミー二俣川を二人で毎朝7時から管理する、働き者の寮長夫妻との出発直前の写真です。両親のようにタクシーが出発するまで見守ってくださったのですが、移動中には二人と別れると思うと、寂しくなって、何も言えなくなりました。

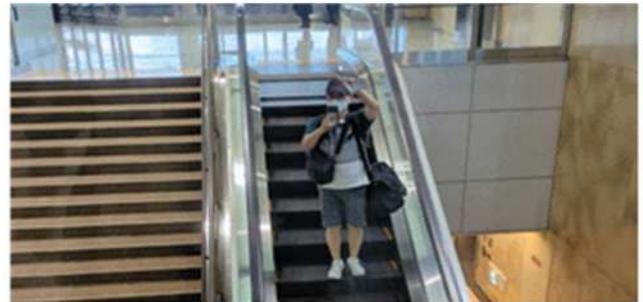


昼ごはんを食べて、いよいよ成田空港行きのバスに乗りました。遠くに県庁やランドマークタワーなどがある、みなとみらいが見えます。旅行で1年に1、2回しか行かなかった地域に毎日行くことができ、幸せでした。

現在、関東地方から韓国行きの飛行機は成田空港にしかありません。7月8日に帰国するために12時の航空便を予約しましたが、2回もキャンセルされ、結局17時20分発大韓航空の飛行機になりました。



空港に到着しました。思ったとおり施設内には人があまりおらず、新型コロナウイルスの打撃が一番大きいのではないかと感じました。5月の外国人観光客数が1964年以降で最低で、前年比99%減だそうです。最近、日本政府ではタイやベトナムなど4カ国に対して入国制限の緩和を検討しており、韓国人も一部入国禁止を解除したという記事を見ました。そして、成田空港にもPCRセンターを9月中旬に設置するなど、外国人入国のための準備をしていることによって、観光産業が徐々に活性化していくことを期待しております。



ありがたくも空港まで見送りに来てくださった県庁職員二人との別れの挨拶をしています。県庁職員の後ろに知らない外国の方も、さよならと手を振ってくれています。今までありがとうございました。



空港内部の店にも誰もいません。家族のためにお土産を買おうとしましたが、失敗しました。

飛行機内では、韓国に行く人があまりいないため、一人でいくつもの座席を使えると思いましたが、一人が私の座席のすぐ隣に座っていました。客室乗務員に確認したところ、人員の把握が必要なので飛行機が離陸してからなら、席を移動してもよいという許しを得て、座席を変更しました。1列に8人座れる飛行機ですが、実際は2人くらいが座ってきました。

## ○ 韓国到着



やっと到着しました。写真を撮るために一番後ろ辺りにいたのですが、やはり人が少ないです。

## ○ 検疫



到着するやいなや真っ先にしたことは、やはり新型コロナウイルスと関連したことでした。まず体温を測り、韓国に着くまでの体の状態についての資料を作成しました。

そして、左の写真は、自家隔離アプリをインストールしている様子です。韓国でも外国から入国した人を対象に2週間隔離を実施していますが、隔離をきちんとしているか確認するため、自家隔離アプリケーションをインストールさせて管理しています。

右の写真は、担当公務員たちが、自家隔離アプリケーションがきちんとインストールされているか確認している姿です。



左は、検疫が完了したという確認証と、どこで隔離するかについて記入して提出した書類です。日本から出発する時には、隔離施設に滞在しようとしたのですが、施設に入るためには家の中にトイレが1カ所しかない場合や、一緒に住んでいる家族の中で病気を持つ人がいるなど、家族と別の生活空間がない人が中心に入所できるとのことだったので、私は実家で2週間の隔離生活をすることにしました。そして、手荷物を取りに行ったらやはり数個しかなく、すぐに見つけることができました。



手荷物を探して外に出ると、初めて見る光景が広がっていました。机に座っている方は、各地域の交通係員です。地域別に案内をしていましたが、私は京畿道の水原（スウォン）に住んでいるので京畿道から来た担当者が座っている机の前に行きました。家族の車を利用して帰宅する人とは別に、交通機関で帰宅する人に案内をしていました。仁川空港から水原（スウォン）までは1日に4回、帰国者専用バスが運行していました。午後8時30分が最終バスでしたが、運良く乗ることができました。



出発する場所も地域別に異なり、写真は京畿道へ出発する方々が待機する場所です。外部の人と会えないようにするため、別の場所で待ちました。



仁川空港から水原まで1時間20分ほどで到着しました。バスの発車前に水原市交通関連部署に電話をして、バス停から家まで移動するためのコルベン（※）を用意しておきました。全部で7台が待っていましたが、これは空港から7人が水原まで来たことを意味します。空港から水原までの料金は私が払いましたが、コルベンの費用は水原市が負担してくれます。乗る直前に全身を5分間消毒し続けたのですが、私が病菌を移す患者になったような気分でした。

※ コルベン：荷物の多い人が利用するタクシー



翌日保健所に電話して、昨日帰国して検査を受けたいと予約をしました。空港で症状のない人は一度家に戻ってから、翌日に検査を受けに行かなければなりません。自治体によっては、空港まで迎えに行き、当日検査を実施して検査結果が出るまで帰宅できないところもあります。

午前 11 時 30 分に検査を予約して家を出ました。アパート団地内には一週間に一回マーケットが開かれますが、持っているお金もないし、隔離期間中に他の人に会ってはいけなないので、そのまま通り過ぎるしかありませんでした。

保健所に行くのに、人通りのない道を選んで向かいました。車があればいいのですが、日本に行く前に、お父さんに車をあげてしまったため、歩いて行きました。後ろに見えるのが私の住んでいるアパートで隣に水田もあります。まるで海老名市のような雰囲気です。

※ 日本でのマンション規模の建物を韓国ではアパートと呼んでいます。



40 分歩いて、水原市勸善区役所の保健所に到着しました。まず、検査を受ける人とは完全に離れたスペースで待機します。検査をするために、肩までつながったゴム手袋をはめていて、私が到着したら手にゴム手袋をもう一つはめて、最後に患者検査するたびに使用して捨てるビニール手袋をはめて検査を行いました。検査は口の中と鼻の中の物質を採取し、それを私が受け取り、容器に入れてから冷蔵庫に入れ、検体室を出ました。検査を受ける時、棒が私の鼻の中や口の中を歩き回る不思議な感じがしたので、二度と検査を受けたくありません。



検査が終わると、消毒剤、体温計、ゴミ袋などをもらって家に帰りました。韓国ではゴミを捨てる際、専用の袋に入れます。隔離が終わったら隔離者が使ったゴミであることを示すためにオレンジ色の袋に入れて捨てます。

そして二日後に保健所から送って頂いた食べ物が届きました。隔離者が外出しないように、ご飯、米、ラーメン、海苔、ハム、カレーなどが入っています。

翌日午前8時頃に検査結果のメッセージが届きました。結果は陰性でした。結果が出るまでははらしました。



最後に、自家隔離アプリケーションについて紹介します。まず、自宅の住所、電話番号などを入力すると管轄保健所の担当者が指定されます。すると、電話がかかってきて、報告の仕方を教えてくれます。

1日に3回検査をして転送を押すと、保健所の担当者が確認します。アプリとGPSで、隔離場所にきちんといるか確認することができます。そして、携帯電話の近くにいるか確認するための警報音が頻繁に送られます。警報音を聞いてすぐ返事を送らなければなりません。

自己診断は全部で4つの項目があり、体温測定、咳をするか、喉が痛いか、呼吸困難があるか、を診断して送ります。2週間胃の症状がないので、いよいよ7月22日の12時から隔離が終わります。隔離が終わるまでに胃に症状がなければ、検査を受けなくても大丈夫です。

1年間本当にありがとうございました。皆さんを韓国でお待ちしています。

7月26日 河 俊圭